



ダム公園の紹介

ダム公園と笹流ダム前庭広場

吉 田 一 雄

函館市企業局は、ダムに隣接した二つの公園を管理している。新中野ダムに隣接するダム公園と、笹流ダムに隣接する笹流ダム前庭広場である。これらは、二級河川亀田川の上流に位置し、市民にレクリエーションの場を提供し、あわせて水資源を直接貯えるダムと、森林の水源涵養機能を自然の中で楽しみながら学ぶために、水道事業者が設置した施設である。北海道内にある4基のダムのミニチュアが設置してある「ダム公園」を中心に、「笹流ダム前庭広場」とあわせて紹介する。

キーワード：ダム公園、笹流ダム前庭広場、新中野ダム、笹流ダム、ミニチュアダム

1. はじめに

二つの公園は、函館市の市街地を南北に縦断する亀田川（かめだがわ）の上流に位置する。亀田川は、横津岳（よこつだけ）連峰のひとつ袴腰岳（はかまごしだけ）を水源として流路延長20.1km流域面積43.5km²の東北に細長い流域を持ち、函館市の市街地を北東から南に貫流し、津軽海峡に河口を持つ河川である。その亀田川の上流から順に、ダム公園と、笹流（ささながれ）ダム前庭広場がある。上流側から順に二つの公園を紹介する。

なお、本稿中の意見に関する部分については、筆者の個人的見解であることをはじめにお断りしたい。

2. 二つのダム公園

ダムに隣接する公園をダム公園というのならば、函館市企業局は、二つのダム公園を管理していることになる。概要を別表（表-1）に掲げる。

二つとも亀田川の上流に位置するため、地元市民でさえよく取り違える。古くからあり、赤川小学校に近

い公園が笹流ダム前庭広場なのだが、地元市民はそうは言わない。通称、「赤川の水源地（あかがわのすいげんち）」である。それに対して、ダム公園は1986年（昭和61年）完成の公園であり、赤川水源地よりもさらに上流へ4km北上した位置にある。

3. ダム公園（図-1、写真-1、参考HP-1）

新中野ダムに隣接するダム公園は、新中野ダムが完成した1984年（昭和59年）の翌々年に函館市企業局（当時は函館市水道局）が設置した公園である。

メイン施設であるミニチュアダムは、北海道の代表的な4基のダムを配置してある。ミニチュアダムの大きさは実物のほぼ50分の1程度である¹⁾。公園の北側から順に、石狩川の最上流にある大雪（たいせつ）ダム（写真-2）、札幌市にある豊平峡（ほうへいきょう）ダム（写真-3）、そして笹流ダム（写真-4）と、新中野ダム（写真-5）である。ダム堤体の縮尺は、いずれも同じ縮尺ではない。ダムによって縮尺を変えている。加えて、高さ方向と、延長方向で若干縮尺を変えている。また、ダム堤体だけを縮小しただけでは

表-1 公園の概要

名称	ダム公園	笹流ダム前庭広場（赤川水源地）
位置	函館市街地から北東へ12km	函館市街地から北東へ8km
アクセス	函館バス「赤川」行き終点「赤川」下車、徒歩30分	函館バス「赤川」行き「赤川小学校」下車、徒歩7分
隣接するダム	新中野ダム 1984年（昭和59年度）完成	笹流ダム 1923年（大正12年）完成 1984年（昭和59年度）大規模改修
特色	昭和61年完成 北海道の代表的な4つのダムのミニチュア	笹流ダムに隣接した公園 サクラ、モミジ他



図一1 ダム公園 (パンフレット「函館水道のダム」²⁾より)



写真一1 ダム公園近景



写真一2 ダム公園ミニチュアダム (大雪ダム)



写真一3 ダム公園ミニチュアダム (豊平峡ダム)



写真一4 ダム公園ミニチュアダム (笹流ダム)



写真一5 ダム公園ミニチュアダム (新中野ダム)

なく、ダム周辺の地形をも模している。公園内にある木々に目を移せば、西側園路沿いに、北海道松前町から寄贈を受けたサクラの一群がある。また、東側園路沿いには、カナダ・ハリファックス市から寄贈されたヘムロックツリー (和名ツガ) 等が植えられ、園中央に位置するミニチュアダム周辺には菖蒲池 (しょうぶいけ) と、紅葉で美しいモミジがある。

ダム公園は、実は一年中開園しているわけではなく、開園時期は、サクラが咲く4月下旬からモミジが散ってしまう11月下旬までである。11月下旬には、雪が降り始める時期でもある。厳寒期は、積雪は1mにおよび、12月初めですでに銀世界である (写真一6)。



写真一6 ダム公園 (12月)

ダム公園は、水道事業者が設置した施設ではあるが、実は給水区域に含まれていない。施設内にある給水栓から出てくる水は、水道水ではなく井戸水である。それはつまり、井戸からくみ上げられた地下水が豊富できれいであることの証でもある。また、ミニチュアダムのダム湖の水は、井戸水ではなく、新中野ダムから供給された原水であり、まさに本当のダム湖水を使用している。

4. 新中野ダム

新中野ダムは、はじめから新中野ダムであったわけではなく、北海道によって嵩上げされるまでは、函館市企業局（当時は函館市水道局）が有していた水道専用ダム「中野ダム」であった。1984年（昭和59年）に、治水目的のため中野ダムを嵩上げし新中野ダムとして生まれ変わったものである。現在は、北海道と函館市企業局の兼用工作物となっている。

5. 笹流ダム前庭広場

函館市民であれば、小学生の遠足で、必ずと言っていいほど訪れる公園である。

笹流ダム前庭広場には、ソメイヨシノなどのサクラや、紅葉で美しいモミジやカエデがあり、春から秋に至るまで目を喜ばせるのに事欠かない。

笹流ダムへは、西側からは管理事務所の園路から、東側からは東橋（あずまばし）を渡って左側の園路を登っていくとよい。堤体まであがると、前庭広場を眼下に、好天に恵まれれば函館山を見ることができる。

6. 笹流ダム

笹流ダムは、1923年（大正12年）に築造されたパッ

トレス式（＝扶壁式）ダムである。現在の笹流ダムは、1923年（大正12年）に築造されたそのままではない。1978年（昭和53年）度から堤体調査を実施し、さらに1983年（昭和58年）度から改修工事を施行して翌1984年（昭和59年）度に大規模改修を終えたものである。その後、笹流ダムを含む函館市の水道施設は、1985年（昭和60年）に近代水道百選に選ばれ、2001年（平成13年）には土木学会選奨土木遺産認定施設に選ばれた。その記念碑が園中央にある。また、平成20年度には近代化産業遺産群に選ばれている。

7. おわりに

函館市にあるダム公園について紹介した。全国には、多くのダム公園があると聞く。そうした中、函館市のダム公園を本誌にて紹介できたことは大変うれしく思う。ダム公園は、ミニチュアダムがあることが最大の特色と言えるが、これに加えて、函館市の、笹流ダムを初めとする水道施設群が近代化産業遺産などに選ばれていることも特筆したい。

JICMA

《参考文献》

- 1) 函館市水道百年史 企画製作 函館市水道局 平成元年9月1日発行
- 2) 函館市水道局 「函館水道のダム」パンフレット

《参考ホームページ》

HP-1) 函館市企業局ダム公園

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/suidou/info/institution/index.html>

【筆者紹介】

吉田 一雄（よしだ かずお）
函館市企業局
上下水道部 浄水課
水源林担当主査

